

## 気づいちゃった補足説明 (No.1)

2025年2月17日公開開始

○「善行によって、罪を償<sup>つぐな</sup>える」や「善行によって、狂った人生の歯車（時の流れ）を正常に戻せる」の応用問題。

- ・善行によって、怒りや不満・愚痴<sup>ぐち</sup>を抑え<sup>おさ</sup>（鎮<sup>しず</sup>め）られる。
- ・善行によって、慢心を抑えられる。
- ・善行によって、悲しみを忘れられる（乗り越えられる）。
- ・善行によって、苦しみに耐えられる。
- ・善行によって、問題を解決できる。
- ・善行によって、福<sup>ふく</sup>を招<sup>まね</sup>くことができる。
- ・善行によって、有頂天になっている心を鎮められる。
- ・善行によって、緊張<sup>きんちよう</sup>を緩和<sup>かんわ</sup>できる。
- ・善行によって、気分が良くなる。
- ・善行によって、願<sup>かな</sup>いを叶えることができる。
- ・善行によって、和解<sup>わかい</sup>できる。
- ・善行によって、平和を招くことができる。
- ・善行によって、愛と知恵と勇気と希望と友が得られる。
- ・善行によって、生き甲斐<sup>がい</sup>を見つけることができる。
- ・善行によって、天から、とても大切な使命<sup>さす</sup>が授けられる。
- ・（これらの）「逆も真なり」と言う摂理の働きにより、悪行<sup>あくぎよう</sup>によっては、問題は解決できず、怒りや不満・愚痴が増すだけで、むしろ愛と知恵と勇気と希望を失い地獄が現象化する。

○刑法上の罪を犯して、善良な人々の命や財産を奪った者たちは、罪を犯させた、知能や、言語や手足の機能が募集された状態で、捜査<sup>そうさ</sup>に掛かった経費と労力を支払う、悲惨<sup>ひさん</sup>な霊界での生活と来世が待ってい

るので、現世のうちに、罪を償<sup>つぐな</sup>い始めた方が賢明<sup>けんめい</sup>です。

○国王制や独裁体制等の廃止を、命を懸けて説く必要はありません。それはなぜか？ 彼らは、飢え苦しむ人たちや被災して苦しむ人たちがいても、形だけの見舞いの言葉で、（憲法で保障されている身分だからと言う口実<sup>こうじつ かか</sup>を掲げて）贅沢<sup>ぜいたく</sup>三昧<sup>さんまい</sup>の生活を続けている人たちですから、贅沢<sup>ぜいたく</sup>三昧<sup>さんまい</sup>の程度に応じた報いを、霊界で、そして来世、貧しい日々を過ごす形で受けることになるからです。つまり、彼らを、摂理の働きに委<sup>ゆだ</sup>ねていれば、やがて、彼らは、報いの苦しみの中で、国王制や独裁体制がいかに反真理的体制なのかを知るようになるからです。ですから、国王制や独裁体制等の廃止を、命を懸けて説くのではなく、「彼らが自ら、国王制や独裁体制と決別して、地獄の未来世を送ることがないように」祈れば良いと考えます。

同じように、悪業<sup>あくごう</sup>三昧<sup>さんまい</sup>の生活を送っている極道<sup>ごくどう</sup>の人たちに対しても同様で、命を懸けて法を説く必要はなく、「彼らが自ら、極道の世界と決別して、地獄の未来世を送ることがないように」祈れば良いと考えます。

○銀河霊たちが、罪を償い合うことにした、（正確には、罪を償い合うことにしなければならなかった）根本的理由があります。

それは、人類が歩んできた歴史が物語っているように、銀河霊たちが、真理と摂理の働きに関して無知な世界（地球）に、人霊<sup>じんれい</sup>レベルで降誕したとき、食糧難の状況を乗り切るため、あるいは安定した食糧を確保するため、他の人（霊）たちと生死（命）を懸けて戦うことになり、その結果、多くの人たちを傷つけたり、騙<sup>だま</sup>したり、殺<sup>あや</sup>めたりすることになりました。

一方、銀河霊たちには、宇宙の創造方法を徐々に学んでもらうと言

う、創造主が課した使命があるため、霊界の銀河霊たちから、地上の銀河霊（人類）に、高度な文明が徐々に送信されることになりました。すると、高度に進化した殺戮兵器<sup>さつりくへいき</sup>が製造されるようになり、一人の人間が、数万人、数千人を、一瞬で殺めることが可能になってしまいました。この人間を仮に A 国の A さんとしますと、A さんが、自分の国、家族、親族、友人等々の生活を守るため、敵と認識してしまった、周辺の善良な C 国、部族等々の人々数万人の命を、B さんに命じて、奪った場合、A さんと B さん、さらに、A さんと B さんの行為に賛同した A 国民は、真理と摂理の働きにより、罪の報いを受けることとなります。

では、どれほどの罪の報いとなるのか？

結論から言うと、A 国民の利益を得るためとは言え、C 国民の命と財産と子どもたちの希望・未来を奪い、耐え難い<sup>がた</sup>苦しみを与えた A さんは、銀河霊から一気<sup>いっき</sup>に動物霊～想念レベル、B さんは人霊～物質レベル、A 国民は、恒星霊～植物霊レベルの霊体に落ち、その世界・霊界から、心の修行をやり直すこととなります。

人類は、このような戦争を幾つも繰り返しておりますので、自身が犯した罪を、自身で償っていたのでは、戦争のたびに、多くの地上の銀河霊たちが、動物霊～想念の世界に落ちてしまいますから、他の類魂（銀河霊）たちと罪を償い合わないと、全銀河霊が、なかなか宇宙霊や第一霊の上位霊界に入れられないからです。

ただし、A さんと B さんと A 国民は、当然、他の銀河霊よりも多くの報い（天罰）を受けることとなります。

○現在の地上世界は、現体制を長く維持するため、「憲法」など重要な法律ほど、なかなか改正できない制度になっておりますが、これは神仏の目から観れば悪知恵です。確かに、急激な変化は、戸惑うこと

もありますが、適正な移行期間を設けるなど工夫すれば、対応可能です。つまり、重要な法律ほど、有権者（議員や国民等）の過半数で決定・改正可能にすべきです。また、一気に複数の条文を改正するのは、意見が纏<sup>まと</sup>まらず挫折する可能性が高くなりますので、優先順位の高いものから、1条文ずつ、改正手続きを進めるのが賢明だと思います。

○悟ったことを実践できなければ、悟ったことにはならない。

○お金（＝衣食住）よりも大切なものの存在に気づいた人が、真に幸せな人です。

○霊界と物質界の宇宙（＝地上世界）は、言ったことは言われる、思ったことは思われる、やったことはやられる、と言う因果律の摂理が、天秤で量ったような数学的正確さをもって働きます。

なぜ、そうなっているのか？

言ってはいけないことを言わないため、思ってはいけないことを思わないため、やってはいけないことをやらないためです。つまり、誰もが、そうすることによって、霊界と宇宙に、平和と調和と秩序が形成されるからです。

○皆様はやがて、広大な霊界と宇宙を旅するようになります。そうになると、そのような霊界と宇宙を創造できる霊力を身につけたいと言う気持ちが自然に湧いてくるのです。

○対極に存在するものにも目を向けると言う青金律の応用問題。

・最も必要で大切なものによって人生を台無しにすることがある。

たとえば、もてる男は女で、もてる女は男で、人生を駄目にする。

金持ちは、有り余るほどのお金によって、人生を駄目にする。

健康な者は、健康を過信して、定期健康診断を受信しなかったために、病気を早期発見できず手遅れになった。

登山に自身のある者ほど、山で命を落とす。

水泳に自身のある者ほど、海や川で命を落とす。

車の運転に自身のあるプロのレーサーが、車の事故で、よく、命を落とす。

強い者ほど、プロレスのマットで命を落とす。

評価の高い教育者（＝聖職者や徳の高い人や天使や天女も同じ）ほど、言葉で、強烈に他人を傷つけてしまうことがある。

判事や警察官や刑務官や消防署員や自衛隊員や聖職者ほど、大きな罪を犯してしまうことがある。

世間でよく言われている「好事魔多し」（反対は「ピンチはチャンス」）や「練習は本番のつもりで、本番は練習のつもりでやれ」も同じ思考。

など。

○私は地上に降り立って、モーゼ君が説いた教えと、釈迦君が説いた教えと、イエス君が説いた教えと、マホメット君が説いた教えと、シルバーバーチ君が説いた教え（＝バトン）を受け取りました。これらは、私が霊界にいたとき、宇宙霊や銀河霊の皆様に説いていた教えが、地上に降りた私に戻されたものですが、ここは、謙虚に、彼ら（五霊たち）から、バトンを受け取ったと解すべきであると気づきました。では、なんのために、彼らの教えを受け取る必要があったのか？ それは、彼らの教えを集大成し、人霊から未来の創造主である第一霊に繋がる真理の螺旋階段（＝赤～紫・白金律）を文字（＝目に

見える虹)で表すためです。そうすることによって、誰でも、この階段を登って、第一霊の霊格に到達できるからです。

○惑星霊界以下の世界では、行為の報い(天罰・褒美・福德)を速やかに受ける世界ですから、この法則(真理と摂理の働き)によって、平和と調和と秩序が形成・維持されているため、この法則が創造主そのものであると(彼らの認識では大霊、だから創造主は、男性神や女性神のような人間的形態でない)考えられており、自分たちが、どれほど霊力・霊格を向上させていっても、この法則そのものにはなれない、つまり創造主にはなれないし、これまで休むことも、変更されることもなかった、このような完璧に働く法則が、今後、2つ、3つと、現れる必要もない、つまり自分たちが、新たな創造主に成長する必要はないと、惑星霊以下の霊体は、考えているわけです。

○地上に降誕した第一霊は、地上にいるうちに(=現世のうちに)、己の(犯した)罪を認め心の底から反省(懺悔)した霊体については、許す神(創造主)です。

○霊格が低い動物霊界や植物霊界では、自己責任や自力解決の世界であることは、だれもが容易に想像できるかと思います。これと同じように、銀河霊から観て霊格が低い惑星霊界や人霊界では、他人の罪を背負い合う自己犠牲の精神があまり育っていない世界ですから、困った人がいても、基本的に「捨て置け」の自己責任と自力解決の世界なのです。

○すべての霊体に対して尊厳の心をもって接するべきです。

○イエス君が聖書の中で語っているように「天に富を積むべき = 他人のためにお金を使う形で、天に徳（分）を積むべき」です。

○1人ひとり（1つ1つ）の霊体を丁寧に・根気よく導いてゆくことが重要です。（すぐに答えを見るのではなく、丁寧に・根気よく（私の）公案を解いてゆくことが、この実践の良い練習・訓練になると、霊界の銀河霊たちが言っております。）

○善行によって、報いの苦しみを和らげる。

○悩み苦しんで、罪を償う。

○自らの悩み苦しみから、大勢の人たちが、悩み苦しんでいる現状を知る（忘れない）。

○全生命体に、真理と摂理の働きを学んで頂きながら、未来の創造主に導くために、全生命体にとって、敵や毒や好ましくないと思える生命体（ウイルスなどの病原菌、寄生虫、癌細胞など）を創造したり、生命体の遺伝子を操作したりして、さまざまな病気を生み出した責任者（創造主）として、地上に降誕した際、これらから派生する病気・苦しみを、一通り味わい、かつ、これらの病気を、薬に頼らずに克服する方法を探し、確立して、人類に示すことが、地上に降誕した、創造主に課せられた大切な使命の一つです。

○美しい人生は、日々、善想念で心を満たして美しく生きる、その積み重ねです。しかし、愚痴や迷いや煩惱などの悪想念が自然に湧いてくるので、常に（心の）葛藤です。そして、飽和点を越えた実践は、

すべきでないことも理解しながら生活することも大切です。

○あまり難しく考えない。遊び心でゆったり・のんびり・マイペースで。

○嫌いな人に出合ったとき、「嫌いだ」という感情をゼロにすることは、不可能です。でも、この感情を可能な限り小さくすることが大切で、心の修行です。この修行を実践すればするほど霊格・霊力が向上し、同時に、愛と知恵と勇気と希望と霊界通信力と治癒力が向上します。喜怒哀楽や見返りを求める感情（＝悪想念に繋がり、霊格・霊力を低下させる感情）を小さくするよう努めること（感情をコントロールすること）も同じ効果があります。

○善行によって怒りを鎮め冷静さを取り戻す。逆も真なり。つまり、悪行によって怒りが増し人生を誤る。

○仏道修行を開始して間もないころ、先達（先輩の修行者）から言われたことがあります。それは、「真の懺悔とは、全身の毛穴から血が噴き出すほどのものだ」と。つまり、「心の底から懺悔し、耐えがたい痛み・苦しみを伴うものだ」と。最近、私もそう思えるようになりました。

○募金などの善行や善想念は、自分の未来に、喜びや生き甲斐（希望）をプレゼントするようなものです。

○誰に対しても、どんなとき（状況）でも、親切に接することができたならば、それは最高の人生と言える。なぜなら、摂理の働きによっ

て、他人<sup>ひと</sup>に親切にした者は周囲から親切にしてもらえるため、「親切に満ちた」想念に包まれながら日々を過ごすことができるからです。

○他人<sup>ひと</sup>の悪口を言わないように訓練する。なぜなら、悪口は、「私はこの人の不幸を願っている悪霊です」と語っているようなものだから。このような心の紋様では天国には絶対に入れない。もし天国に入ってしまったならば、他の天国の住人が迷惑し、そこは天国の世界ではなくなるから。なので、他人の悪口を（言わずに）我慢<sup>がまん</sup>できた者・他人の不幸を願わなかった者（＝すべての人々の幸せを祈った者）だけが天国に入ることができ、かつ喜びに満ちた来世を送ることができるのです。

○悩みや葛藤<sup>かつとう</sup>（迷い）がなければ（心の）修行にならない。そして、目標や向上心や希望や喜び（満足・健康・幸福感・知恵・天国等のご褒美<sup>ほうび</sup>）がなければ、（心の）修行をする気が起こらないし、修行をすればするほど、悩みや苦しみが緩和され、喜びが増すようであれば、修行を続けてゆくことは困難です。

神仏たちは、このような人間の心を理解しているので、修行者の心の中に悩みや葛藤（迷い）を生じさせ、かつ修行が進むに伴って、有頂天にならない程度に喜びと言う福德をプレゼントしてくれる。

○楽な修行はない。真の修行は辛<sup>つら</sup>く厳しいもの。だからこそ、魂は磨<sup>みが</sup>かれ鍛<sup>きた</sup>えられる。ただし、継続できるよう限界を超えないように。

○どんなに苦しくとも、毎日欠かさず〇〇円、募金しよう。これが、私がこの世に生まれた使命の1つだから。

○ネーム君（＝宇宙霊たち）が見せた、麻雀牌を操作して役満（or 満貫）を創ったり、電話番号や宝くじの当籤番号を操作したり、虹を天に描いたりする霊力は、宇宙霊たちの霊力の偉大さを人類の皆様を示す目的よりも、私に示す目的が強かったのです。それはなぜか？  
第一霊となった皆様も地上に人間の姿で降誕したとき、宇宙霊たちや五霊たちから「あなたこそ、本物の創造主、しかも始原なる第一霊なのです」と言われても、「（にわかには）信じられません」と答えることと思います。しかし、奇跡的な下線部の霊力を幾つも観せられたならば「このような偉大な霊力を持つ者の言うことならば、と、次第に（己は創造主、しかも始原なる第一霊であると）確信できるようになり」、創造主としての自覚ができてきます。そして、創造主として相応しい行動をとるよう、努める気持ちが出来上がってきます。

○屈辱的な仕打ちを受けたり、ショックな場面に出合ったりしても、感情をコントロールできるよう努める。（＝心を乱してお馬鹿な行動をとることがないように努める・芽生えてくる悪想念を抑える。）

○苦勞して実践した善行が報われないとしたら、真理と摂理がそうではないことになる。

○捨て腐って投げやりになってしまったならば、人生はどこまでも崩れていってしまう。だから、そうならないように、冷静になって、希望の光を心に灯そう。たとえば、小さくとも毎日こつこつ善行を積み重ねてゆけば、光り輝く霊界での生活と来世が待っているのだと。

○周囲の霊体（宇宙霊や銀河霊等）の顔色を窺って（＝遠慮したり気を使ったりして）ばかりいて、己の信念を貫けないようでは創造

主（第一霊）ではない。だから、私は、周囲の霊体の意見に耳を傾けるものの、変えるべきでない判断した信念は変えない。

○懺悔しながら善行によって罪を償う。

○限界を超えた自己犠牲は、己も周囲の者も（＝誰も）幸せにしない。

○己は今、幸せではないけれども、周囲の生命体を幸せにすることはできる。

○修行は、心と体に苦痛（＝心の葛藤<sup>かつとう</sup>）を伴うものである。なので、苦痛を感じないようにでは修行になっていない。

○誰のことも恨まず侮辱<sup>ぶじよく</sup>せず、日々清らかで美しく穏やかな心<sup>おだ</sup>で過ごす。

○来世は少しでも良い<sup>い</sup>人生であることを願って、懺悔と善行の日々を過ごす。

○健康で裕福で才能に満ち溢れていたならば、人は真理と摂理の働きを学ぼうと言う気が起こらないため、芽生えてくる慢心によって、道を踏み外し必ず不幸になる。やがて、生きるうえで最も大切なもの（＝健康や財産や才能よりも大切なもの）は、真理と摂理の存在を学ぶことであることに気づくことになる。

○一度きりの人生だから悔<sup>く</sup>いのないように生きよう。

○心が折れたときは、無理をせずにしばらく休んで心の傷を癒<sup>いや</sup>そう。

○善行は苦しみを緩和してくれるばかりでなく、次第に靈格が向上し進むべき正しい道を選択できる判断力が身につき人生が豊かになる。

○人生では、自分の持っている正義（価値観）とは異なる正義を持っている人に出合う。なぜなら、この世は修行の道場だから。そのときは、正義は人によって異なることを理解したうえで、共に冷静になって互いに相手の立場で正義を吟味し、そして共に譲歩できる点（妥協点）を見出す努力をしなければならない。そうしないと戦争になってしまうから。

---